

2020年度 施設関係者評価委員会の総合的な評価

施設関係者評価委員

荒堀智美 井上薫 高橋徳庫 安田光則

・コロナ禍の中、様々なことが出来なかったり、制限を受けてしまったりするが、積極的に取り組んでいた。

・ユネスコスクールの取り組みは、お便りで視覚的にもわかりやすく伝える工夫がされていた。お年寄りとのふれあいについて、対面での交流が出来ない中、リモートでの取り組みがなされたことなどから、変化にも対応して試行錯誤しながら、保育をしっかりと組み立てることが出来ていた。これからの保育にむけて新しく広がりが見えている。

・研修にも積極的に参加できていたことは、評価できる。補助の先生たちと思いを共有することも大事である。年度初めに時間を作って、伝えると良い。

・園舎の建て替えにより、園庭が使えなかったり、部屋が一部なくなったりというマイナスに思える環境も、貴重な機会とし、今後の活動にプラスになるような伝え方をしたい。

・めぐみ幼稚園との法人の一体化で、各園の積み重ねや、文化がそれぞれに活かされるような関わりをもつと良い。

・支援の子どもたちへのアプローチが大切である。

・子どもたちが少しずつ礼拝やお祈りの中で、真剣に神様と向き合っている姿に感動しました。

・コロナの状況の中でも、子どもたちが手洗いやマスクに気をつけながら、元気に過ごしている。園内の各教室や各部屋に消毒液があり、園全体で取り組む姿勢がみられた。また、子どもたちに手指の消毒の大切さを伝えていて、子どもたちが率先して消毒し、忘れていた子どもたちに声をかけるなど、相手のことも気に掛けていた。また、手洗いもしっかりできていた。

・こはんまつりは我が子からも他のクラスの子の名前が出てきていて、その様子がうかがえました。とても良い取り組みだと思う。年齢の上の子どもたちが年下の子どもたちに対してサポートする姿がみられました。思いやりが育つことを感じた。

・先生たちも皆、優しく丁寧に保育して下さり安心できた。子どもたちが落ち着いた子も多く、良い幼稚園だと感じる。

以上